

多年氷から探る南極氷床縁の 海洋-雪氷圏変動の特性



南極氷床縁に接した定着氷域には夏でも融けきらない多年氷がある。多年氷は下面成長する他、氷上積雪に染み上がった海水の凍結で上方にも厚くなる。昭和基地周辺に存在する多年氷に注目して過去38年間の変化を調べた結果、数年～10年ほどの間隔で広範囲に崩壊・流出していること、また海水試料の解析から、多年氷の成長・維持には積雪の効果が重要であることを見出した。さらに多年氷は氷床融解水の影響を受け、棚氷や氷河浮氷舌末端との間で相互作用を生じる環境にもある。この多年氷を通じた南極の海洋-雪氷圏の実態把握と変動機構の解明に向けた研究の一端を、観測の苦労や海水の魅力を取り交ぜてご紹介する。

A special talk at the Seminar of Studies on Hazards and Environments

- ・ “Variation characteristics of the ocean-cryosphere system in the Antarctic ice sheet margin approaching from multi-year landfast sea ice”
- ・ Prof. Shuki Ushio (National Institute of Polar Research)
- ・ Friday 16:30-17:30 pm, the 22th of December, 2017
- ・ Presentation room at the Saigai-ken building, 1st floor

国立極地研究所 牛尾 収輝 先生

日付：2017年12月22日（金）

時間：16:30～17:30

場所：災害研1階プレゼンテーションルーム

